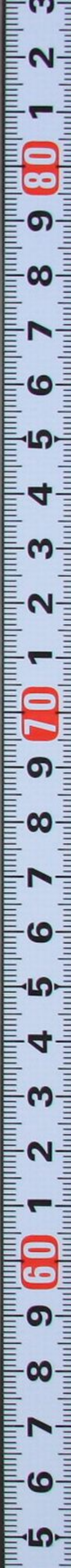




蓮如上人御遺跡圖巻

蓮如上人御遺跡圖巻
現



湖東止齋老人著併画



蓮如上人御遺跡圖會

全部 二冊

此書ハ實止六酉年より丑年まで五年
知真影御安座上人御化道の處定りあり其處は是と隱る
ゆゑ遺徳記ハ此五ヶ年、大津、疎屋と借居たり上人も此處
忍ひのひつと假説と述あり歎喜鈔ハ此五ヶ年、京近江爰の
六は漂泊ありと載せ移り替り経りて以今其實事と著書あり

蓮如上人御遺跡圖會

遺跡圖會序

紀龍谷蓮師之事蹟者不新而互
有詳略得失或闕畧數年間如或為
然者乃使讀者不免管窺是為憾
耳往日西生伯怒編輯日溪名區勝
地而遂波及師之蹤跡未脫稿而逝矣
今也止齋能續其緒加自遊參河所傳
之事蹟若干條更搜羅諸利之譜籍

蓮如上人御遺跡圖會

與古充之口冥校讎而著為一卷題曰
遺跡圖會且往、嵌圖畫欲使賢者想
像慈悲方便勤苦如斯直生渴信也
雖是不一斑乎以此補彼則於師之事
臨而謂全豹始見不亦愉快乎止齋此舉
不啻全友誼於伯然實法門之忠臣也
小南姓谷田名輔長字伯脩善畫旁以
考據為任余忘年友也及乞序于余、

不肯辭者亦以結來生一大事因緣
耳是為序云

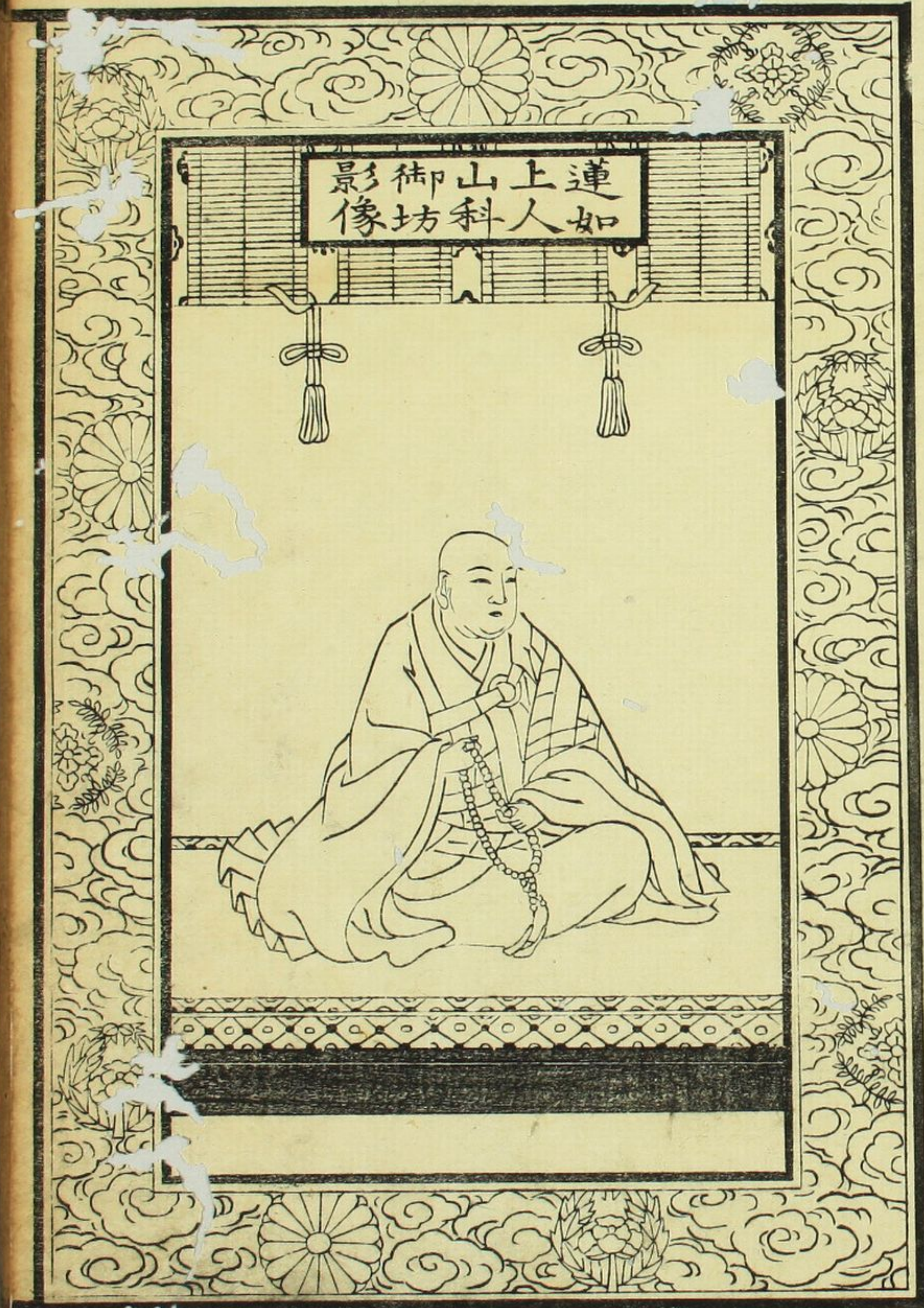
湖東 仙堂主人識



忠
孝
義
勇
廉
潔

蓮如上人之河内國傳化導ハ應仁元年迄の事
七年迄の事の事らりて此三年と書し載せり
此も歳時を得りてまじくある今是を考す
湖東日西人止高翁ハ高田法船致瑞の孫也
家業其の西をたし止好り此癖より天の
力故より此の河内をたして父也更々莫蓮の
子我ありてもその國は其の伯叔の所一は其
信成國の事なり文化元年世事とのれり泉

の里又寓居をせり父と母一宗流を是は蓮傳
三河傳化導より一河内地をたして其の
湖東の河内地を記し事定るとす此の事
これ其の事と集めて一冊子とあり是を傳は
今年又其の事と云ふ寛正元年より文明元年
西暦年此事ハ故ありて其の事と隠せる古語
晚編をよみ知識惜字なりとも今其の事
はるるし止む老人もよくぬり此の事
の宗門此記録をよみ其の事と老信の傳記



里人の口碑より考へ合さく三河水師化
 尊ハ湖東清隱極力内たるより孫人止るより
 可事ハあまの三河水師旧地傳記も具し校正して
 此の様に考へられ端中世に於て其の靈妙なる
 處なるも其の靈妙なるも其の靈妙なるも其の靈妙なるも
 とくくくくくくくく

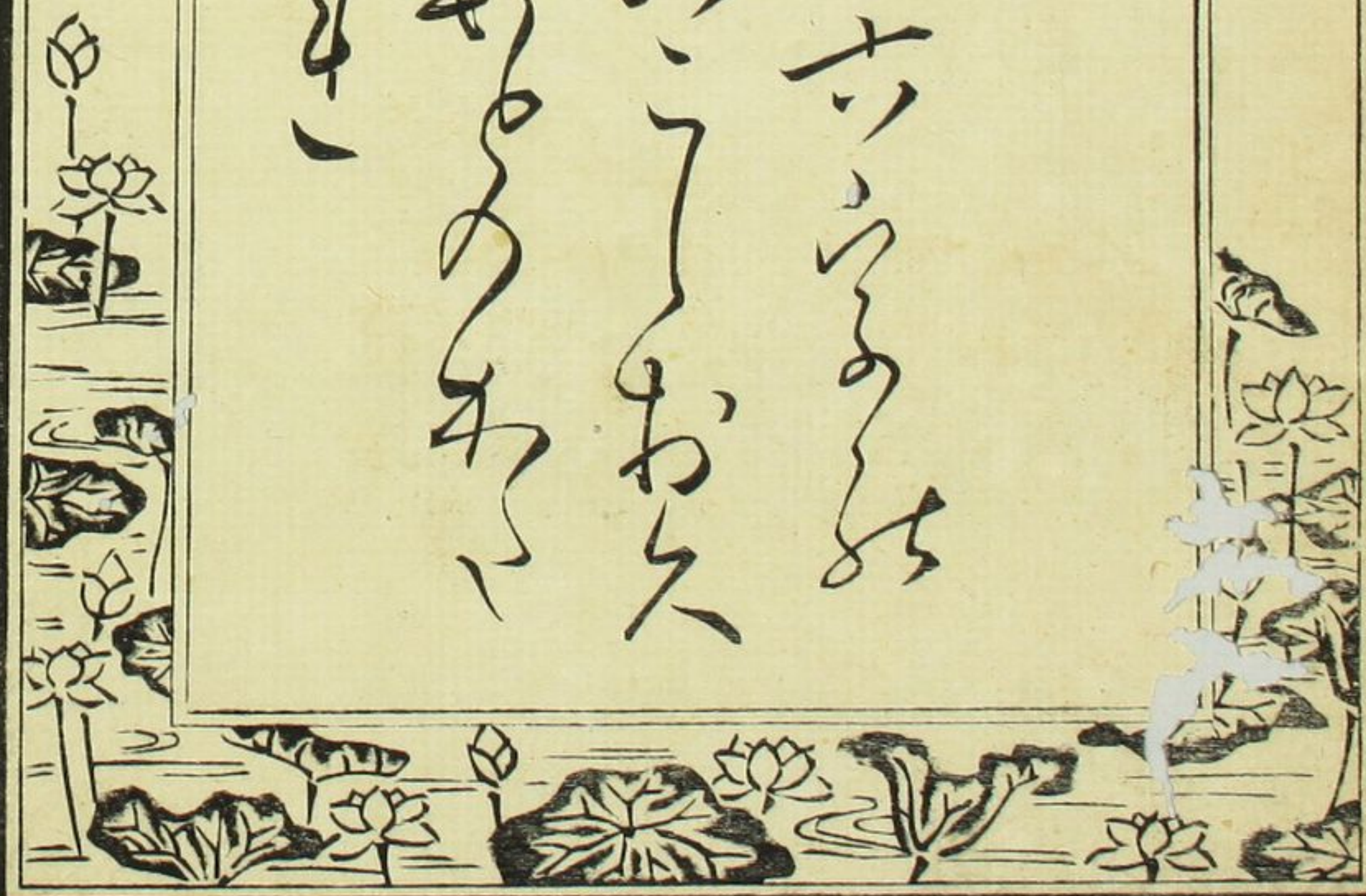
三河國碧海郡出水里

都築景福



蓮如上人御詠歌

かゝるるもつたふも
法名をたはしるお久
あゝのそとあゝのあゝ
こゝもたはしる



蓮如上人御遺跡圖會上

本願寺第八代善知識信院蓮如上人應永二十二年

乙未二月廿五日御誕生布袋丸と名附あり諱と幸亭と

稱し廣橋中納言兼郷乃乃御猶子とあはせたまひ

中納言兼寺と号し永享二年辛未御歳十七歳

より善光院御門跡より御得志を以て平權大僧都

と授けし御室の御修行の南都大衆院御門跡の御弟子

とあはせし法相の御後と授けし又天台山におまじし止觀の深

達と免れさせらるゝ御法門御善學二十餘年御弟子

御師の御歳三十五歳宝徳元年御祖師の御御返

越法化寺有て長祿元丁丑年六月十八日父七代目
吾知識法遷化ありて善也上人法業中二業強はた乃
吾知識法相兼ありて信法宗風秋の母業の廢るる
河門系日小海一盤業ありて法流に海あり
天子より賜ひて日華門の光耀山門よかやきと妬
憤りと會するらるる台位盤業の門と妬と惡逆二并と
焼くと字及又法名寺と焼ゆ今の善也上人平業の法羅
以寛正六年己酉正月九日夜西方山門一致の惡徒大谷本
願寺と滅亡小及上人と大勢押善也上人と善也上人
先河真影と負きとせく為せり法ありておんく

佐く木如光の館と遷しありて一門中ひもあぬ
歌ふる之もも立もあく爰小三以の人佐く木如光といふ
強勇人小孫も上人の善也上人も立合て一働善也小
びらひ根藉と智也上人も名宗も果さむと打物扱て切て
かろとり終る文の法一門法一門味もあうり終る善也
と切ぬけ遷するらるる法一門惡徒善也上人に火と燃す終る
一相乃燃とそとあまらるる上人法一門中教大は
堅固金が善也上人も惡徒善也上人も善也上人も
發ひ来るる一門終る上人法善也上人も善也上人も
もくせ光資坊上人と善也上人も善也上人も善也上人も

案内にて正月十九日野川系貞正よりおとりの入る

欽嘉抄のまじり上人五十一歳寛正六年己酉正月十日大谷の
法華寺叡山の所為よりそ被都と酉戌庚子世又々奉の
系をいふまうこは源流よりて載と

上人智法隱寓は〜〜る延福寺〜二日の法席 痛生

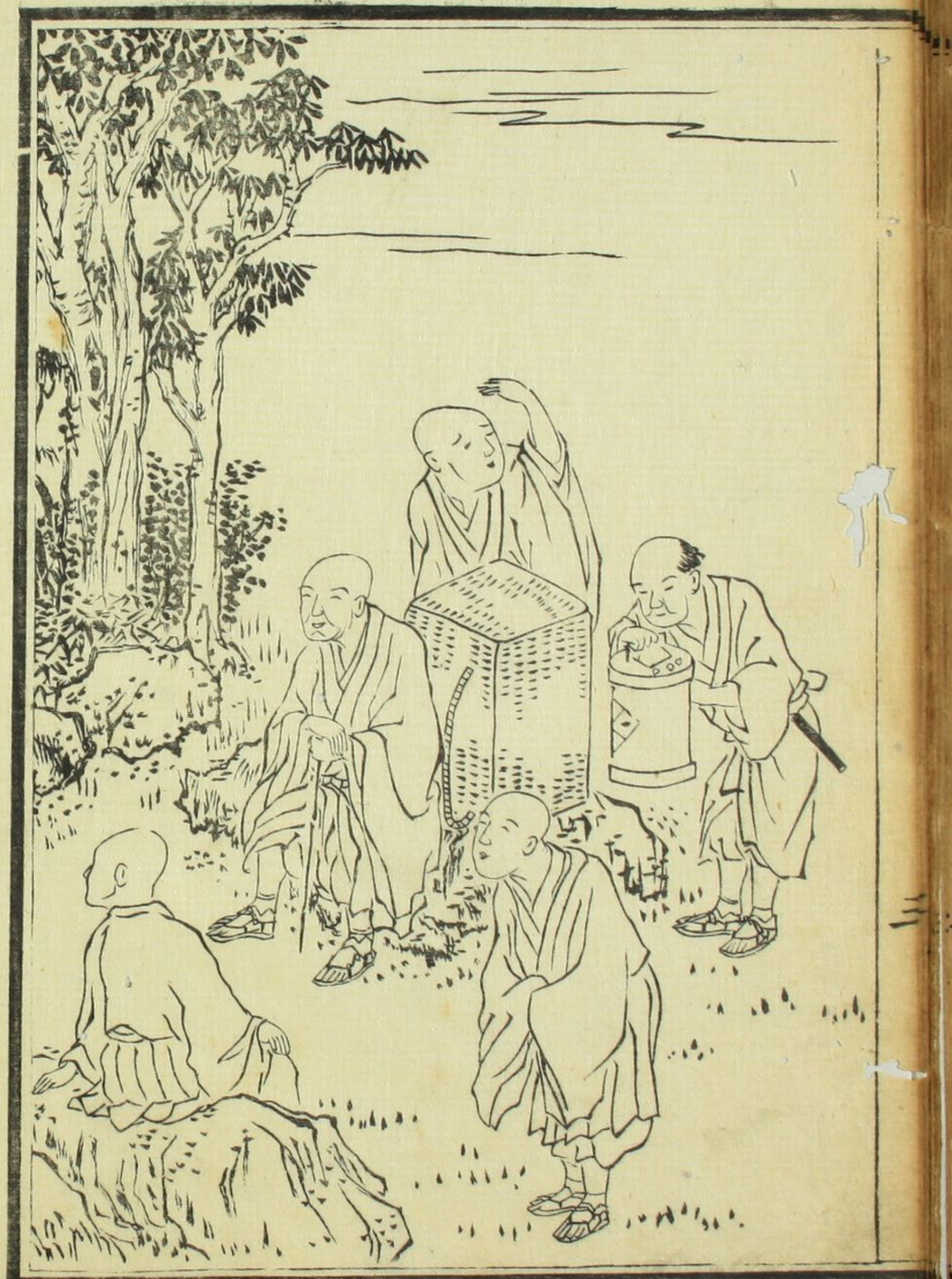
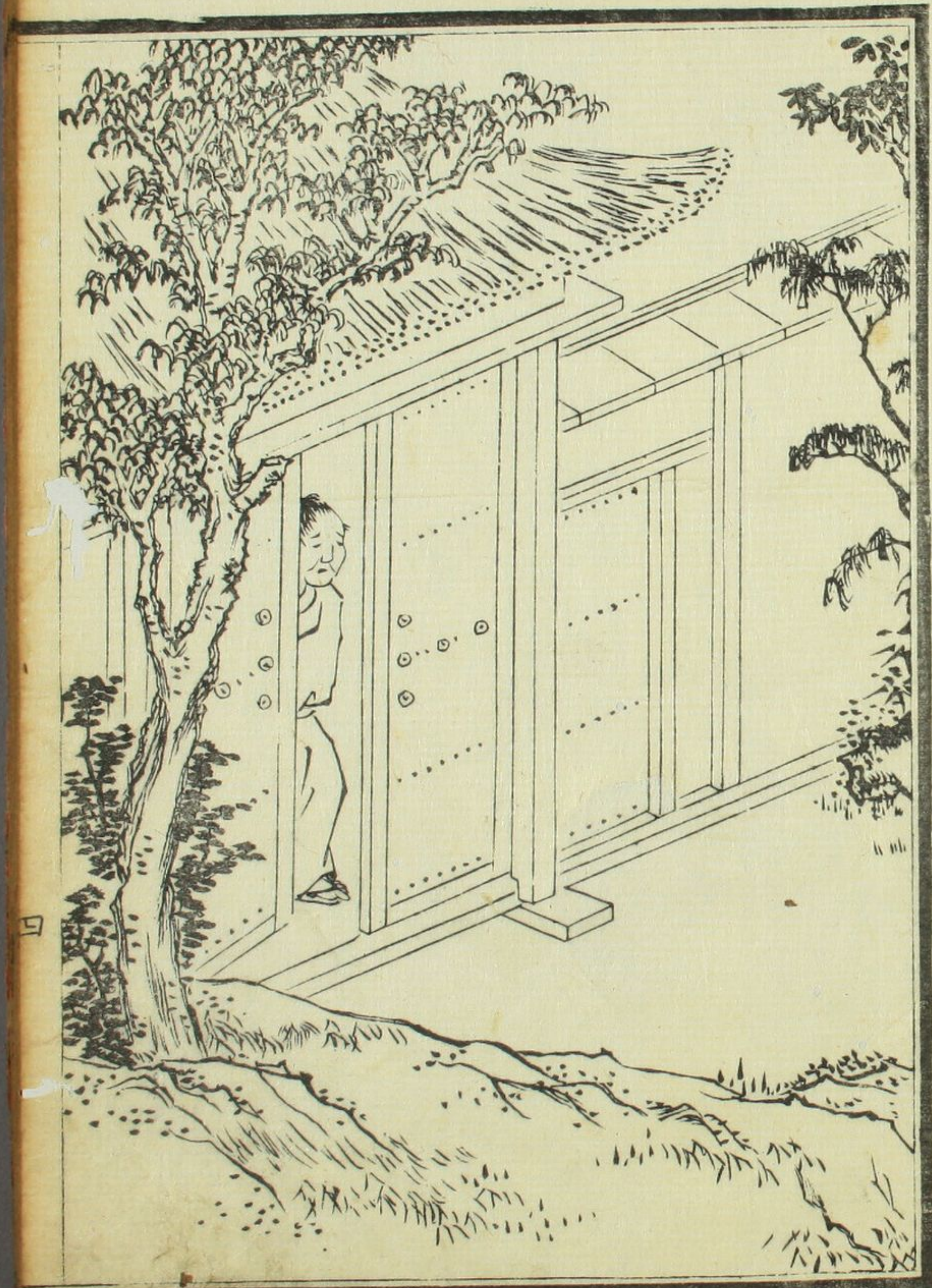
の家人稲田亦六と云付貞正より落人かくす心算より

と云知り台徳の歌といつると云いあるゆりありて也
逆をこ懐と台徳よりまえは法を〜〜亦六娘密に

修りりると閑人とは貞正より通〜〜る〜〜る中竊
小真正寺より一里餘り東の綿向山の麓ある西明寺へ

近より貞正も住持者成案内より西明寺塔中大門坊に
着より左末末もゆ〜〜の興高石より上人孫打りけ曉と
侍まる福あり開門あり〜〜成知る〜〜西の案内
〜〜東に〜〜と信り替〜〜志のせかくすゆり

は泉坊一院ある山門の住徒稲田亦六ゆり有りては孫某
〜〜と思らせ今書上人と害〜〜僧〜〜有りて亦六
の娘上人を飯後〜〜と告〜〜家の乳母と粧〜〜案内を
西明寺女人持家界まで送りま〜〜と乳人の音羽村の
そのゆ〜〜今〜〜ゆ〜〜上人の幼〜〜六字の名号を
傳へる案内より亦六の娘福あり飯後〜〜謂はし



清和菅河原樓ありて三年のいさぎやくに化す
くたるを鞋きし法法と信じて度は海原の時より
あはせしあはせし西の寺と云はれり大つ坊
門前の石は擲ちけ曙と法ありし里人の傳説も
あり

將軍菅河原樓生左兵衛を貞秀彦
ありしなり此の上人と云はれしあり

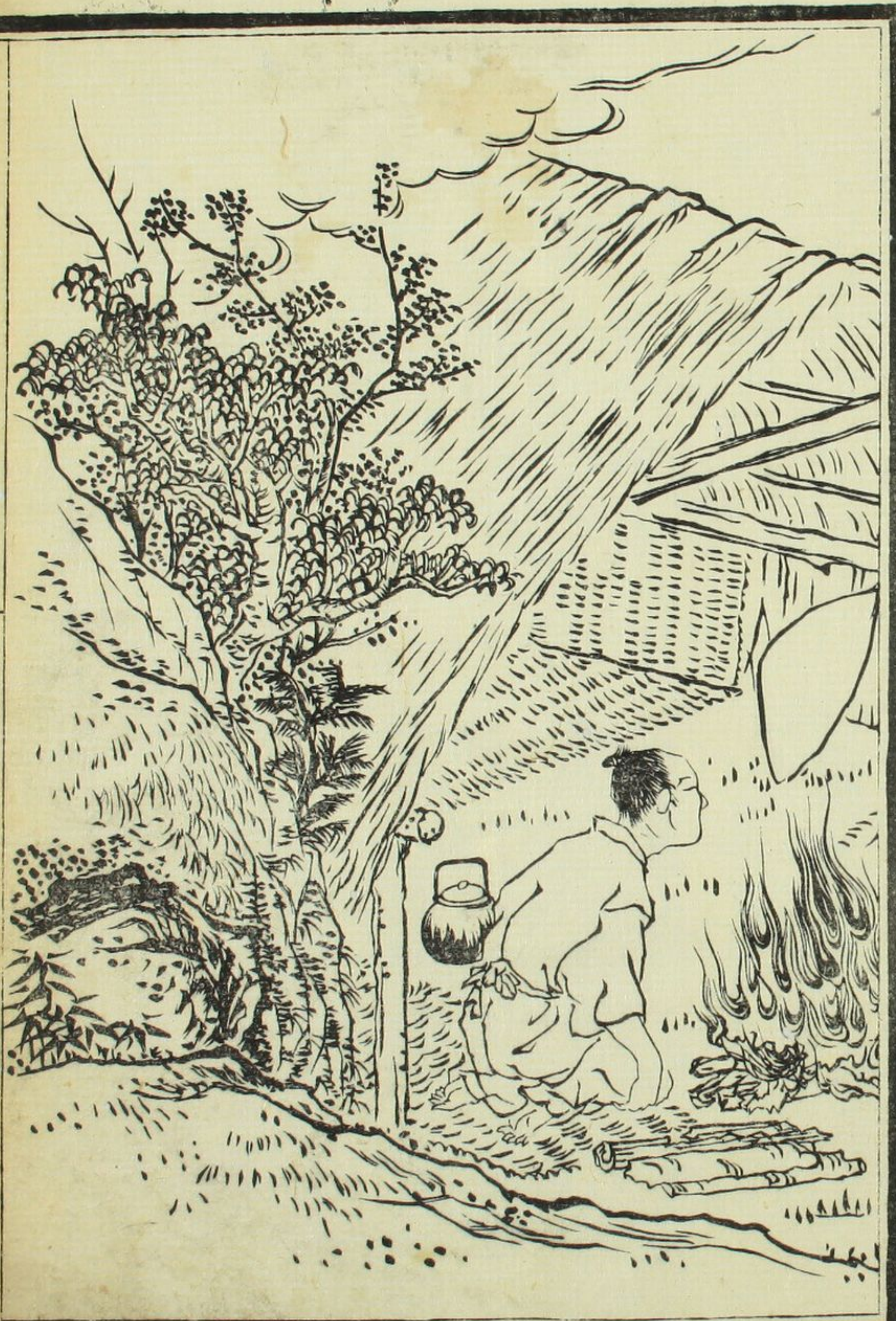
上人の生記と云ふ文正元年二月六日野人蒲生不困
は擲傳や此合を東を西と云はれしあり
ありしなり内法并ふ云ふと云者傳説し法化等と妨

乃由(又金を賣りし法住有)と載と

知開入を六淨を善宗黒谷の流と汲念仏門の人
蒲生軍記載し知開乃善宗持念院の法中と
時の人放言しると暖ふ者法中と法中を擲ちた殿
軍策常小胸ありて念仏と云ふは念仏門信仰の人
勇まも人よと云はれ人と救ふは仁惠源くよ人善宗
祖師の善宗と法中との九信樂院小安堂といふは徒
ありしなり法住の傳りありしなり
公と懸めしなり蒲生文武記と云ふ去寛正二年より
將軍院の法中は法中と云ふなり時貞秀彦供奉

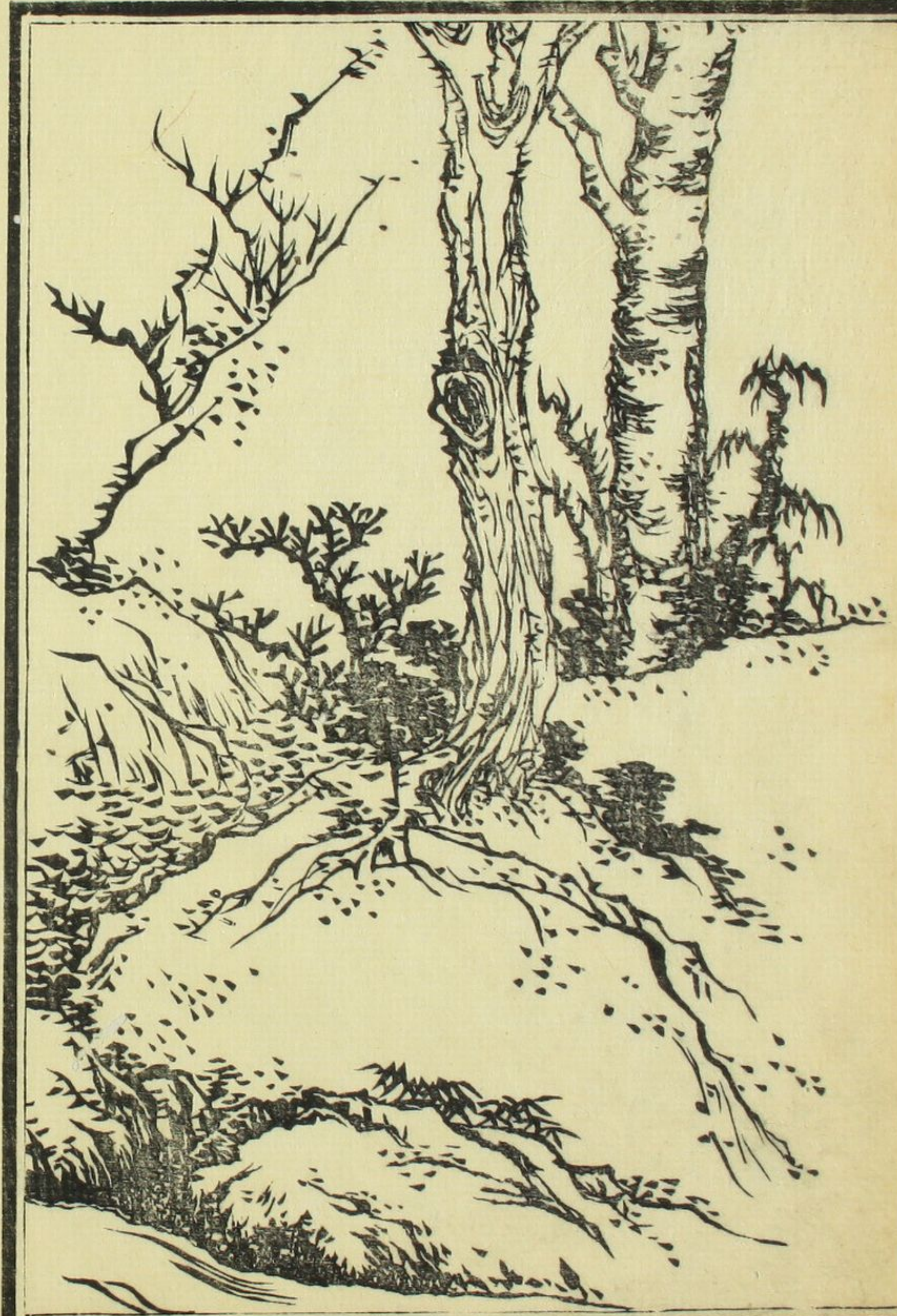
の節刀を何と云ふも時侯も秋の田の影と繪ひて終ひ
 秋涼を小笠山風吹落る色に紅く霜を乳く
 海へさしむ所の秀海なる秋さよもあえく人なり
 主後松永貞正寺小法教化ゆりりおく浄土新
 法女下浄也城ありて侯小法にて上人の曰く教を
 礼せたり節ありといは比小安住の事を識く久たを
 有るを〜とて侯りの西明寺住持本秀阿闍梨に命
 せしむ城主の命ありて去る在相坊の境内清水谷
 廬せしめ〜是より城中一の元信宗院小安を主
 浄土新と遷〜香蓋を依〜勅行を授け〜と云

南真正寺の記より〜浄土新信宗院小秘苑ありて是所
 真正寺よありて自祖師の浄土像を彫刻〜是と法庵
 室小教人吹如上人と始り浄蓮枝更替り法を主居ありて
 一山の傍浄〜と鳩摩羅庵とを呼ぶ南真正寺小真正
 本誓寺浄勸教小相法を是所化浄浄廻高を中
 至本坊室新坊と寺も信順福祐の門徒等浄揚を
 法初〜と終り聖成の年去西明寺を甲津畑村に懸り
 千種山越ありて〜浄〜河二里の山流と登りありて
 山をさこの者よ安をひ子種との流の初と問ふ〜是
 四里の山坂あり〜とつり正月の流あり四里のそ日登り



とらの上入子種と云はりなほこれ以上いふ所なきと云ふ
 地りてありと云ふを厭ひ里は海はあまゝと云ふりよ今夏小
 一秋と過つてゆくことこのこまもいふ人もいふもよ夏小を夜
 一今夏後生の同族と云ふもいふと云ふはて友とせよ
 の若き朝餉の用と云ふ朝と云ふ是のなとと我部
 といふ一夜火と燃焼し清教化と云ふの速小位を
 治すの比徳と云ふ此の法名故入と換けりふあらねを
 子種村と云ふ業田ヤりのまゝの上入長徳院と云ふに種
 清満と云ふ法女公門と云ふの是もいふ二列碧海郡
 依く本上宮寺に清満と云ふ清教化と云ふ

依く本上宮寺と云ふの上宮寺伯藏元同類西端村の建
 是よ依く西端村小幡清化寺あり西光法師の計
 らひゆゑと云ふ町よ一寺清建と云ふ又徳富村あり
 恵性の同族等集りて新ひはす一寺清建と云ふは坊
 と云ふ本字寺と云ふををら新と云ふ二列と云ふの
 清化寺あり内村と云ふ此寺の教道は清化寺の境内小
 清満庵あり
 町田屋敷の記小曰文正元年春酒が清幽栖ら二里
 甲清畑村に山勢及千種乃山越あせと云ふ長等
 新徳寺よ清満と云ふ有てまが二列依く本上宮寺と云ふ



多し所々法依廻りて長徳下地地石地照光寺中は
 系行所より出た化育の末分天徳寺を以て村西
 寺小法道徳寺化寺師しく末分中徳寺としく
 金寺表地地師の將しく出徳中いふあり表の表の
 一や敵山の中をえ事如坊又金寺表地師しくと安
 法寺の産徒是と害せんと言ひたると傳へ師師
 多しの上人共ひて一人金寺表より言ひて依之
 谷と越え西地師と師の多し附法席室を祀り自と
 多し多し以ても園表乃西寺を壇とて園一若みの
 岩嶽の青小師徒と止あり為系表なる木の根小若一若と

長く明く多し安東山乃新り多し寺より法席室と師
 多し今法寺と塔中法一房址の村長某氏の持地天
 の法祿家の表を師と師して寺の上一人一長乃小若と
 稱し師師
 慈仁寺より別分法席室有て如家山中に法隱栖室
 多し外に師師の初の礼世も標し法門徒も師師の
 多し其能比と師の多し法寺と遷り事と多し事
 蒲生侯も親く多し多し多し多し事言と多し事
 蒲生侯の猶子其の体周坊の息子二并南谷金寺院小坐師有て
 檀大僧師法中賢慶と稱し多し多し多し多し事法師

あり上人も同様に信ずらざり終に大津孫志あり者
御書物に南谷百住院 執持して二年南谷別所を松ちり
清一住元六演名を居た
うつしきりくく病る

南谷古八百六坊後十九坊の内百住院合宗院五別所と
尾巻も微妙寺常在寺水祝寺近松寺等也近松寺在
親善大士也大師の作如来堂の圖字檀金の二言信及善光
寺如来と同佛ありといふもと 人宣平七代慶帝は二言
仏安慈と稱ふ於斯長保四年春二月慈心院源信和尚は
谷ふ来り二言と稱し自親一寸八分の鉢陀如来千仏と別
同く本堂の右に並置とを松寺千体仏と云海記に載と

中あをを松寺に祖師の西美彩安慈とあり慈心僧都孫志
超世の慈悲教を信し文化年一と云るに因縁ありありも
不思議ありし

文明元年正月九日西明寺清水菅飯屋と清中三高山
法入其れ時人志終と清安所有一小今度い人言が表
堅田大津の同り清一門中は違ひあり西明寺ありも本坊
本秀阿署梨大門坊主外の中申今年れは住居を各
跡ては刀合より上人音羽城に入らひ廣小浦と厚慈と礼
附しあり二の九信宗院と清安慈の清美彩と稱し
興彦ありと大子と云るありありは海とありと史に松原

真心寺ト云ふものハ川系真心寺に非一宿をせし礼聖十日
金ヶ巻泊の期子くは変化を叙りし門徒等乃勅に是
は比淨依の人々ハ松系真心寺の川系真心寺亦成
本誓寺淨秀道林地室寺坊賢良町田吉敷久村吉太郎
益田合左衛門福田祐園尾川合左衛門早登長左衛門黒
新廣のハ根希左の者番年越空材比又家左衛門正法寺乃以
西教信依け非面授と傳しつ徒等合々悉く淨依あり
聖土日合々悉く西と傳あり徒の教く聖田ハ淨依合々
聖田より大は淨依毎々存き近松寺淨安座なり
雪窓老人の文昭云二月十六日大谷の淨坊破都して二年の南谷

別所ハ淨依歟まじりし淨依歟ハ〜と小留を越前小
入なる〜と記せり
惠室子の合々悉く出生の人々古記の後ハ悉く定て授けし
信可と云ふ定てし記事珠を載らし〜是與心寺
等の古記と符合と
今年来る淨依名寄淨隱棲の内々も淨依勸妻淨増方勸
〜と云ふものにて五々も其の末本山法後と云ふ〜と日登
早登長左衛門と云ふ西明寺淨安堂ハ凡持やたる隣郷
勸妻淨増方棟梁と云ふ名を松台法依〜淨依と云ふ松淨坊
上人越前浄化等の淨依中ハ勸妻浄増方〜と云ふ

上人の末裔文昭元年五月二日と記す安住寺に京を以て
遷す法教化まゝに文昭才之仕夏不居思百立せし
少室法經田法坊法為主中法勅書法幡方ハ越知那
常掛村寺光寺先祖同以統領して百餘里の法住持
續ひ正勅番小相階りる是を後ハ西流小番の傳中と
稱し上人番方ハ獨ひて法書法影射の吾知識乃
佛書と以載し七年小一房番力も法圓寺五日野
番方も其例あり

大慈山西明寺 天台廢寺與立永源寺派

當寺冥基ハ聖徳太子老後ノ別宮營造ノ時與法谷乃

福宮と號し南山ハ禁跡とせしハ主務地と號し
と述る之土面觀音田天皇の像と安住寺春山寺と
号し延喜六年周縁比立多我宗より移住し新
化と慕ひ其の因て新山と改め其後阿彌梨原
正行坊小住とる之多之村據化縁して物産と
横川傳來の觀音不動多門天と稱し是ハ法經山
改め之安之と云は法經寺圓白忠道公親筆に記せ
る後白川院法平寺覺と云ハ嵩別當小補と云
新教所と云ハ新園ノ教長公法經長公三男 速道云從子勅額背向
小の爲 法皇法新教の八字と號せしめり文永三年

休休の巖西の寺の石に五境内の改所の下刻に永源寺
其制詞狀と獨ひと至徳年中重源阿闍梨あしや永源年中
務たご榮あ休い休い長祿年中本秀阿闍梨あしやといづまを
管くだ承あの藤ふじ子こから寛正六年本秀もとひのまゝとて天台門
ふまゝ中秀なかひのあ友ともと上かみ比ひ比ひ蒲か生せい殿でんの令い點てんで
かゝく天台末山たいたいまの終はつ大だい吉祥坊じやうじやうぼうの比ひ中ちゆうに盧ろせしめらる
慶長六年井伊い去こ蕃ばん彦ひこ檢けん註しゆ帳ちやうに載のる字あざな吉祥坊清水谷
並ならび屋や敷しきと註しゆせり

天正四年丙子希々住持ぢゆうぢ台たい使し小こ從じゆうへるとして滅却めつじやくふ及およふ
そ舊ふる仏ぶつ修しゆ堂だう小こ存ぞんと茲こゝ小こ寛かん永えいの末すえに永源寺えいげんじ空くう子し

訓和尚再精舎と書か々々大慈山だいじやんに改かめ退老たいらうの寺じとと

鳩摩羅菴くもらあま 西明寺村吉祥坊古址湧泉地

蓮如上人寛正六年春より文明元年二月と五年に寄
法はふ隱いん樓ろうの古ふる址しから綿わた向むか山さんの二に脉まくら蔓まん山さん一名いちめい終しゆうの林りん麿ま山さん先
比ひ枝えだの東とう塔たつ小こもも記きと競きよひ蒲か生せい神かみ佛ぶつ愛あい知ち甲か賀がの比
那な悉しつく目め下げああり湖うみ水みづは良ら比ひ枝えだの連れん山さん劫せつ東とう山さん小こ壺う
愛あい宕だう山さんの眺てい望ぼう絶ぜつ景けいあり上人じゆうじん法はふ在ざい栖せい一いつ日にち夕ゆふ陽やう小こ壺う
空くうととかか々々秋あきの夜よとと借か々々ああひひく
辺へににああるる綿わた向むか山さんのの簾れんああくく空くうとと劫せつ乃の秋あきの夕ゆふ雲ぐもと
いいととううととああひひ法はふ窟くつ室しつのの回わいりり小こ秋あき候こう系けい牡丹ぼたんといいええるるが

多くはつてはとけはよき花菊と云はつりきよき花菊と
 いへるさかからん通寺の祖町田貞観入道と云はつりきよき花菊と
 住居室又子年よして癸亥せると傳はつてけありの十後乃
 景地並しつと栖の内は後乃ふま〜とありてと云

奇日嶺 綿向山 臨界坡 日觀場 觀鳳原

清水谷 關伽井 安樂阜 巖山 龍王山

蓮如石 船岩

内田揚の西明寺天台門の靈地ふ〜と今も忍と云はつり
 炭岩阜山乃内揚の今も忍と移と云はつり住居室の



寺真氣五手間
 寺本所之古址
 鳩麻之屋

上人遠京眺寺所



十兼八道如石一
 淨庵室淨如石有
 て淨如石と云傳り

淨如石有今ふよ人淨如石をよむも清水菅原村
 氏乃持徳よまら文化古己己年古々西明寺塔中鳩摩
 羅菴の名と號ひ八丁野村本通古九世住持本空西
 明寺村田圃檢註簿の字とて其旧枕と記し官廳へ
 鳩摩羅多伽葉者才十九法統鳩摩羅羅付ハ知藏ふとて
 素帶ありしとて一山ありて是也人を新稱しりり
 淨如石ありし是と同くハ穢し草堂とてまこと
 御本山ト上達し淨如石の意也と人の淨如石を要也
 月々今日兼八の法家忘の法會と修行しり淨如
 深山隱居の淨如石と訪ひて是等の所系を承く年

まゝ業への根ざりあり

本通寺 東派在八丁野村

當寺開基の善哉と稱し父の相列大住持町田村人
小條一族を各貞將降流十房大徳の尉貞河蒲生
武勇と傳へし其子貞秀彦小徳一竟尔家士と成
日野牧野村小住一町田氏と稱し其男貞觀並其
上人清化守と信し其時忠と家嗣とし上人乃
清弟子と成薙髪と法名と善哉と賜ふ西明寺
塔中六十余坊あり其門外八丁と稱し里中居室
と記し住し清美彩と名護と其男也と是是又

法名善哉と號し号し其子空誓は里小住し
里人よは要公と傳へし其子西明寺廢後には是物
と号し教也と人の法門下と成清熱佛の善徳成
賜ひ古の功と成清中法教也傳上月世百法當り
清相傳は泉坊門下と名をり是是今もありと後
寺号し清光の對本通寺と成也

音羽城廢址 音羽村

善哉上人と傳し清真彩安並其子音羽城主浦生
知宗祖也其後藤原秀郷五代孫の俊貞則住
沢郡より上流し由念人住し其子清則甲也其郡

皇軍を庄と賜ふ其子雅俊平相國法盛公は其子浦生
 那小谷山小住一浦生を名とし移して七代孫秀綱
 龜山院才五皇子五辻兵部卿の吉良親王と被授り
 南朝の令とて高師泰に責らるは信長牧村小返居
 其孫秀兼は軍兵満るは仕え甲賀大原村を
 領して其子貞純は永女二子有羽城と築城入る
 して宗熙と号して其子秀綱と嗣して其子左兵衛
 本吏貞秀文治六年合して知宗と稱して城中二死し
 信長院と遷す本名安宅の事は今に信長院の記に
 秀一と文龜元年中盤城一名日野城と築城して其を

本城として郭内又信長院と移し自号是小居と
 從此日野谷百貳拾八里知宗五代孫氏卿勢別松ヶ嶋に
 移り拾貳万石と領し又奥州合津小移りして百貳拾万石に
 領し其子秀行は彦野州守に官小移りして拾万石とありし
 其子忠卿は奥州合津由美百石と領し玄嗣子
 才忠知君伊予國松山に移りして千石を領し是又
 玄嗣子家次は徳島青羽城廢城に八万石の梅を今も
 村内に移し父老傳へて云上人少くも移して七人を
 献せしと梅の本ありと云

日野 常陸國枕石寺寔基道圓産地

舊記の朝日里あり東の大嵩と綿向山と云元八朝日山
 と号し藤野と人皇二十二代雄略天皇の比の綿敷
 野と号し藤野に置あり於此に持揚と押登宮子と射
 教と今も羽村内小津骨と云るに廢あり其後園
 近野と号して天智天皇御宇幸ありて宮代と殿後
 其後をて放ち牧野と云るに馬見岡と云るに昔は此名
 あり昔は國史小詳也信人里と成て菅家の庄宅と云
 菅公左遷の後大領とあり本之寮一属其後三位
 後系資業卿の庄宅と云はれ君と始り日野殿と稱し
 注東寺建立山脈國庄宅も同じ日野と稱し注東あり

建立あり寺たが昔葉脈葉何をも物人乳撞と稱し
 臨ありまは日野に宿ふたを和隆と稱し和隆三女後
 其子孫ふた後尉頼房故ありて常陸公と云る大内村に
 配流と云る親皇と云る大内村の門あり杉原の津難行あり
 そのの先の書にありて此の書小見と畧と申真と云
 台所の横難と云は日野の真山と云ふ恐び大の坊門あり
 石と高野と稱する津難行何も同じ名と考た手も
 不之識ありて二代目若知儀等ありて人日野左衛門尉
 廣隆の津難と云は始り一宮代信昭大僧正の門俗と云
 注東の字と云はれまはれ其後津野又日野牧馬見

是社の別當中山金剛定小能所ありては修學
今法燈塔を起して上人を安んずる傳ふ高
社も是社也 後冷泉院永業に在り小松舍利
と勅賜あり今是と當ちるを大伽藍乃比
小野氏小由らあり所之小野管の書ありと云傳ふ
下馬石ありけ里の庄等下日野部の名を稱しあり
後小浦生家仲登城下町なる同縁あり乃系たり

松永貞教寺 東流余間在仁寺寺邑

開基の親國為俗姓の源高古依と木戸高繼末子
兵庫助兼之の愛小流流一木別桐系卿士生田小を

孝小高と時嘉徳元未正月本朝海嶽に親爲
聖人淨化等の時と宗を種源く信入して難深
は名國爲と号と仁治二年世系系初松東西洞院系に
一字と建立し聖人眞心と号けり慈水二心
九世教う系初の親と遷け石初小整くまて日野に移る
比と永め眞心寺と建立と慈永十五世と十世と
系中坊の小は別居し川系坊と号と是乃兄と云う
南眞心寺と号と小眞心寺と号と云う男宗十
一世と号と眞心寺と号と長孫と号と眞心寺と号と
境比と号と眞心寺と号と未成内佐伯宗親檀越と号と

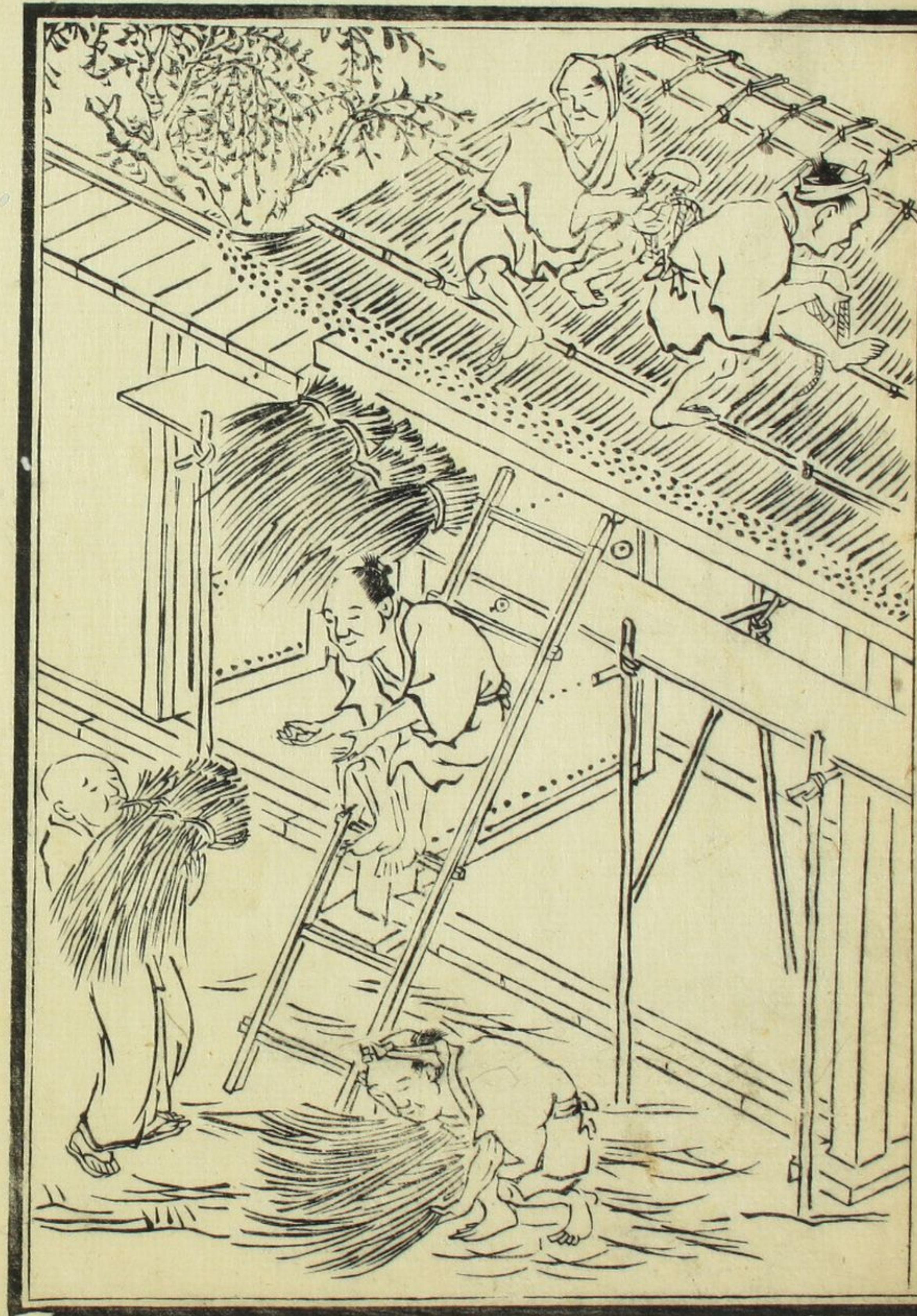
拾遺一西大落山引田比と川系切う流男あ成に獲る
是より流西大落と松系真字と号し中切あ成と
川系真字と号し是の六年と号し其に六年と号し人
台使の横難と避け川系真字と号し福田亦六
の難中より中系西落と号し坊小寄寓法安居の店と号
小法地守法流の所小法流の男子出せよと小字と号
是れと命せし是を代け小字と号し教人名附と号
明應二年山階法坊法流と号し知宗と号し寺
と名し二月廿八日上人真の字と割更小高寺と
真教寺田比と号し寺と号し其も号の額と号し深義佛

殿小掲ぐ元龜二年未と号し本我秀あ成の宛基
と号し是れ氏族のものと号し是れ捨我と号し是れ
同じく香酒義秀は管領職小法と号し是れ織田信長
是れと号し是れ流生氏郷養と号し是れ其の歎と
豊後秀吉と号し是れ天正十二年と号し酒年と号
是れと号し是れ秀次と号し是れ其の歎と
是れと号し是れ未年四月秀次廢せらるる是れ
是れと号し是れ伊豆守公増初作は是れ其の歎と
是れと号し是れ住持中念持は是れ其の歎と
是れと号し是れ東大寺大仏は是れ其の歎と

上人清原祖師傳記云云上人彫刺祖師坐像清水
谷清安極中安在佛同清自画聖人清安彩法身
の清安像と稱くを松本移りて清安と云ふ
は清原は新像等也抄々牧筆云々一住本清生
書物秀次を以て社小岳と云ふも秀次殿上人
也也上人清生上の古物石山新像の時夫文教多畧之
正學寺 西派内陳在日野北大久保町

寛正六年二月十九日蓮如上人台徳の終と避け幸資坊
去人とのまをせりひ合ふ表の南もふ高雷をせ死
程あり又六月逆をあり西明寺に於てまの法要樓乃

後南もふは愛院の時表社を以て新業を以て門と昔り
上人坐く法を是と助けたる住持成也と云ふ
藁と發多ありまの昔人是と難を以て逆昔もせり
如あり是を今一門と云ふ昔中を以て文治元年二月九日
清真教音胸城清出興仁寺自真寺もふは高雷也
小清一宿願也自合ふ表と云ふは住也延徳二年兵火
より西真正寺焼亡同之も清生久秀廣安寺先造管
あり永正八年辛未六月廿八日実也上人南も住日の切
と云ふ是を廢し祖師坐像對座の法彩とたまふ
大永元年辛丑八月清生久秀二男石塔寺の塔高



卿姪秀胤の中野城と責放火をて高寺敷焼と是か
住持了空伊豆上野小流寓と彼所つひに崇まると建つう同く
ふりまると卿更北と初はつ上野に崇まると空三男
空三男と嗣今の地小正崇まると建嫡男爾尔十毎
とと天文三の年高卿男定秀城下町刻と改かへて是地
南大窪今地小大久保と元龜武年住く本義秀
市系今一おとろ捨武家の寺と崇まると元龜天正
大坂寺本寺より蒲生寺移入魂のりあ寺は執持を
天正四の年大坂新堀の附真教寺門徒六百人心崇まると
末寺門徒六百人と率一牧りふ向ふと後末寺大仏

住持の附真教寺心崇まると去淨教寺名沢福田寺者
は眼位小叙く形也上人と住奉と寛永の後頼住持
有て末山多く背起門徒離散と番毛も清さ小滅
せんといは從是挑溪法霖二代本山講堂能化職住持
せし然時勢復振ふ然まき古小似とま寶教支略之
等也上人尚も淨化寺寺の附電貴の系橋四化より
後一極く母くま根と傳へつと

即登山本誓寺 東風院家日野牧野田村ニ在り
行基開基業師堂小井口村小寺りま後六条判官為
義男信吉先生義教法然上人小從く出家一親誓

聖人の神徳見事ありて然て疑惑と承て是と性化
先生と稱し兼師堂廢跡と遺後一跡と云ふ事
即登山中盤古と号し淨宗宗中教を流し是則
系創也主後日野殿也野田氏平貞公と云有覺如
上人中山金剛定も小修學ありて汎問く然後後
生の一大事小及ふ終り才子と云淨惠と号く後小
中盤古と稱し聖田村小移と云安十と云丁吏之是と
中興と云と次と云秀と云宗約谷十郎孫大橋正經男之
六代孫淨宗天正二乙甲戌九月勢別長徳教院と信
長云被却せし能恒持教惠十二兼弟兼九奇雅派

尚も小避く教上人是と稱すせしめ且教院も再興
の事と託し兼九と淨宗男淨秀の嗣と云し教名を
教惠と稱し慶長八年癸卯二月淨秀西野小退老
淨秀才淨うと西派と云付室中教正定業二幅昂
對し兼上人深徳同上人帷子あり捨波色小紋あり
大類く腫と敵と同發葛新者也造る
上人性身俗形のやりの害と避らる旅帳也彌經
ありも彌經ありるを尚も小修人跡ありて度言以て化
度し當も小修人ありても暑月帷子汗深より倦く
尚もあり妙尼布と杖より織下し裁縫して兼を

らん種ありと松林移り多る府記念として種をまき
多る教如上人感状信を氏武為深物不教多畧之
堂木寺照光寺 東流内陸内比村小寺

昔昔山里菅家本庄等の村当村の比小庄飯多今も比
と菅家屋敷菅家本庄比名多し家寺七姓の家
跡より菅家の比大領と比捨物庄と号し本立寮と
属と七姓の内表振氏の家小比捨物庄の比
乃て樺さくくを黄し海あり

近江あり捨物の里の極さくく表振の家の家ありと
是の表振氏と改堂木氏と称し後備生あり仕(堂木)

上人比比寺立居く時法海と改改門と於堂木坊
と号し上人西遊も比隠栖中比執持は勅番小相造
比備用と勅めし日野五寺也後堂木寺と号し照
光寺よ改堂木堂木寺と号し宇津村は場本堂坊
の檀甲寺本堂木寺の末男源八郎祝賀し比西と号
本堂坊と住持し教如上人の時堂木寺に住し教如
乃西正堂寺小加勢し石文城に大功あり教如上人教如人
法書を賜ふ

東流余間日野谷堂田村ニ在リ

堂木寺照光寺 東流余間日野谷堂田村ニ在リ
住持天台宗理仙法師 系創之後平相本法盛嫡

男、松内大臣重盛末子故有て叡山出家、後
 尚志小住職と稱盛法師寂應と稱と河、甲斐郡
 坂宮氏の庶孫重盛重盛治當郡大塚村、移住と
 秀治孫重盛重盛治當郡大塚村、移住と
 号と赤旗二子、示現小園と尚志本郡深織寺、
 親重聖人、法東條其法を信、師才左小聖人の
 法弟子と成聖人、重盛坊、行、乾坊と名を賜ふ、淨土
 美宗の道場と成、後聖人、深織寺、法東條寺、教化
 移、賜ひ物、本坊、河性寺、領、面石、天台、相續、其
 後、長云、是と破却と寂應、血脉、重盛坊、賢良、良

真教寺加勢、取、石山、寺、重盛坊、本坊と
 是と、重盛中、焼亡と、本寺、重盛坊、門徒、是、我
 後、不失、是、古、賢良、重盛坊、移、本坊、の、寺
 号、と、明心寺、と、建、立、と、世、師、聖、人、六、拾、三、葉、法、彩
 法、路、の、重、盛、と、久、重、山、光、法、師、如、來、九、字、名、号、十、字
 名、号、法、讓、坊、聖、人、法、重、丸、本、道、法、師、重、聖、人、法、化
 け、印、什、交、教、多

蓮如上人御遺跡圖會卷之上終

